

## 第 2-4 回

(2016.4.19,4.26,5.10)

## 資料調査の入り口

カール・ベッカー教授(こころの未来研究センター)

### ■ 第 2 回:演習(KULINE の使い方) 4 月 19 日(火)

- ✓ 場 所: 学術情報メディアセンター南館 303 演習室
- ✓ 出席者: 30 名
- ✓ 配布物: 講義資料(KULINE 講義・PandA 解答方法)、演習問題、演習解説、参考資料、授業で用いるツールの紹介

#### 《前半》

##### ➤ 北村先生によるスタッフ紹介

##### ➤ ベッカー先生による授業の概要・目的の説明(14:45 - 14:55)

- 冒頭に北村先生より「資料調査の入り口」を担当する教員および演習補助者の紹介があった。その後、ベッカー先生による、本パートの概要・目的の説明がなされた。

##### ➤ 授業で用いるツールの紹介(14:55 - 15:00 担当:坂本)

- 本授業で用いるツールとして、授業 HP、Twitter、学習サポートデスク、PandA の紹介を行った。PandA に受講生がログイン可能かテストを行い、未登録者の手動登録を行った。

##### ➤ KULINE 講義(15:00 - 15:30 担当:宮田)

- 「参考文献」リストの役割やその記述例、図書と雑誌の違いを説明し、「参考文献」リストから書誌情報を読み取る方法を解説した。また、読み取った書誌情報を使用した KULINE の検索方法の説明を行い、検索のテクニックや検索結果の見方を例示した。

##### ➤ 演習への解答方法の説明(15:30 - 15:40 担当:宮田)

- 課題で用いる PandA のクイズ機能に慣れてもらうため、受講生と一緒に例題を解く時間を設けた。

#### 《後半》

##### ➤ KULINE 演習(15:40 - 16:10)

- KULINE を用いて、図書の所蔵を検索する演習を実施した。検索結果は PandA のクイズ機能を用いて回答してもらい、時間内に全員提出した。演習補助者は室内を巡回し、受講生の回答状況を見てアドバイスをし、質問の対応にあたった。解答に際して PandA の操作に関するトラブルがあった。第 3 回の冒頭で採点は最後に提出した解答だけでなく複数提出していれば全ての解答を採点対象とすることをアナウンスした。

##### ➤ 演習解説(16:10 - 16:15 担当:山上)

- 受講生の提出を確認した後、演習問題の解説を行った。冒頭の部分等、ほとんどの受講生が解答できている部分は適宜解説を省略し、質問が多かった問題を重点的に解説した。

(文責:山上朋宏)

## ■ 第3回:講義 4月26日(火)

- ✓ 場 所: 学術情報メディアセンター南館 303 演習室
- ✓ 出席者: 24名
- ✓ 配布物: ベッカー先生講義資料、宿題

### ➤ 先生の講義 -大学レベルの論文の作成- (14:45 - 16:10)

- ベッカー先生から以下の内容について講義があった。
  - ・論文とは: エッセイ、感想とは異なり根拠を挙げながら独自の見解を示すことが求められる。
  - ・概念の整理: 論文を作成する際には、細かい部分にいきなり取り組むのではなく、自分の研究テーマを大きな枠組みの中で捉えて問題関心を明確化しなければならない。そのためには研究テーマの上位語・下位語・関連語を検討して概念整理を行うことが必要である。
  - ・参考図書の活用: 論文の作成には、まず自分の研究テーマに基づいて百科事典等の「参考図書」を引くことが必要である。参考図書を調査することで、
    - (1) 自分の研究テーマがどの程度メジャーか
    - (2) 自分の研究テーマの主要参考文献は何か
    - (3) 自分の研究テーマの権威者は誰かを知ることができる。これらは研究における基礎知識として、必ず押さえておかなければならない事柄である。
  - ・参考図書の引き方: 概念整理によって検討したキーワードに基づいて索引から引く。凡例に目を通して記号や用語の意味を確認する。  
バランスの取れた情報を得るために、2種類以上のツールを使う。  
(上記について「森鷗外」を『日本大百科全書』から調べる場合を例として解説)
  - ・次週課題の予告: 次週(第4回)はこの講義の内容を踏まえ、受講生の関心に応じた、テーマ設定、概念整理、参考図書の調査、基本文献の所在確認を内容とした課題(図書館実習)を附属図書館で実施する。

### ➤ 宿題の説明 (16:10 - 16:15 担当:宮田)

- 演習補助者から配布した宿題について説明した。講義の内容を踏まえて、自分の関心のあるテーマを2つ設定し、それぞれについてアプローチする分野、キーワードの概念整理、調査テーマのタイトルを回答するよう指示した。
- 次週の図書館実習は宿題で設定したテーマのうちの1つを利用して実施するため、回答した宿題は次週必ず持参すること、教室が附属図書館に変更になることを併せて連絡した。

(文責:坂本 拓)

## ■ 第4回:演習 5月10日(火)

- ✓ 場 所: 附属図書館3階講習会室 / 同1階参考図書コーナー
- ✓ 出席者: 24名
- ✓ 配布物: 講義資料、図書館実習解答用紙、事典リスト、課題提出方法説明資料

### 《前半》

#### ➤ 先生による概念整理についてのフォローアップ (14:45 - 15:00)

- 事前課題として課した宿題(実習で調査するテーマ・キーワードの設定)について受講生からベッカー先生が質問を受付け、数名から挙げた質問について回答した。

#### ➤ 図書館実習説明1 (15:00 - 15:15 担当:山上)

- 実習に向けて、前回取り扱った参考図書について復習した。前年度同様、参考図書の基本的な使用方法を説明するとともに、資料の選択基準や採点のポイント等についても詳細な説明を加えた。

#### ➤ 図書館実習説明2 (15:15 - 15:20 担当:宮田)

- 前年度の実習で寄せられた質問をもとに、実習時の内容判断の基準を説明した。タイトル・著者は一致しているが出版事項が一致しないケース等の判断について、KULINE の実際の操作画面や参考図書の画面コピーを使用して解説した。

### 《後半》

#### ➤ 図書館実習 (15:20 - 16:05)

- 附属図書館1F参考図書コーナーへ移動して実習を行った。前回の宿題で設定したテーマ・キーワードを利用して適切な参考図書を2点探し出し(課題5)、探し出した参考図書を比較してより参考文献の豊富な1点を選び(課題6)、参考図書の記載内容に基づいて、学内で所蔵する参考文献または項目執筆者の著作を調査する(課題7)ように指示した。演習補助者は館内各所にて、受講生の誘導と質問対応にあたった。時間になったら、実習が最後まで終わっていない場合でも講習会室へ戻るように指示した。

#### ➤ 実習用紙提出方法の説明 (16:05 - 16:15 担当:宮田)

- 実習は授業後も引き続き取り組むことができることを、PandAの「課題」機能から全て提出することを説明した。PandA上での提出方法、提出期限、授業後に実習に取り組む際の諸注意について解説した。解散時に第3回で課した宿題を回収した。

(文責:宮田 怜)